



日本プライマリ・ケア連合学会
四国ブロック支部 活動報告

発行人：板東 浩

事務局 〒761-2103

香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1

綾川町国民健康保険陶病院気付

副支部長/事務局長 大原昌樹・松原宛

Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795

E-mail oharamasaki@gmail.com

★1 日本PC連合学会四国支部大会（徳島）のご案内

第14回四国支部学術集会 大会長 海陽町穴喰診療所 白川光雄

＜第14回日本PC連合学会四国ブロック支部/四国地域医学研究会 学術集会・合同集会 開催要領＞

主催：日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部、四国地域医学研究会

日時：平成26年11月15日（土）14時00分～18時30分

平成26年11月16日（日）09時00分～12時40分（予定）

会場：日垂メディカルホール（〒770-8503 徳島市蔵本町2-50-1

徳島大学蔵本キャンパス内 徳島大学病院西病棟11階）

情報交換会レストラン Sora（15日18時40分より予定）

（日垂メディカルホールに隣接：088-633-9393）

学会サブテーマ（仮題）：

「心理面、社会面を含めた全人的な医療を四国から発信！」

シンポジウム：11月15日（土）15:40-17:00 予定

演題「日常診療に潜む心身症」（日本心療内科学会中国・四国支部との合同シンポジウム）

講師：四国四県から4名予定

特別講演：11月15日（土）17:00-17:50 予定

演題「現代版不定愁訴 MUS (Medically Unexplained Symptoms) の概要と対応」

講師 岡田宏基 先生（香川大学医学教育学講座教授・医学部教育センター長）

理事長講演：11月15日（土）18:00-18:30 予定

演題「Facts に学び地域を診る」

講師 一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会理事長

丸山 泉 先生（医療法人社団豊泉会理事長・同丸山病院院長）

日程の予定

1日目：一般講演1日目（研修医・学生対象）の後、「日常診療に潜む心身症」をテーマとした日本心療内科学会中国・四国支部との合同シンポジウムを開催し、シンポジストとして四国各県の先生方をお招きします。また、香川大学 岡田宏基先生による特別講演、学会理事長 丸山 泉先生による理事長講演の後、情報交換会を開催する予定です。なお、昨年高知で開かれた四国支部学術集会以好評であった研修医・学生対象の「臨床推論の時間」も一般講演の前に取りたいと思っています。

2日目：後期研修医ポートフォリオ発表会の後、一般講演2日目（主に研修医・学生以外対象）を行う予定です。以上、四国支部学術集会の開催要項をお知らせします（5月末現在）。

次レターではスケジュールの詳細や演題募集に関してお知らせできる予定です。



★2 高知臨床推論ケースカンファレンスのご報告

佐野内科リハビリテーションクリニック 佐野 良仁

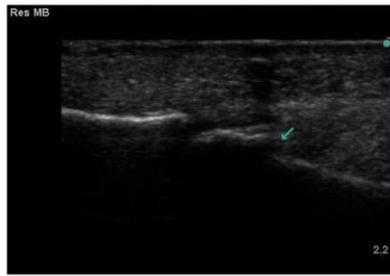
今年度初の臨床推論を5月24日(土)に高知赤十字病院で開催しました。日程は、14:30~16:00 エコーハンズオンセミナー『5分で出来るようになる!総胆管の描出方法~ハンズオンでやってみよう~』、16:00~17:00 ケースカンファレンスという内容で勤めていきました。参加者は、初期研修医7名(日赤5名、近森2名)と医学生2名の9名でした。エコーを実際に使用しての勉強会でしたので、結果的には少数精鋭でちょうど位の人数でした。

まず、15分ほど、『CareNet CME』の動画サイトで、胆嚢・胆管の描出に関するエコー図のポイントの講義を受けました。その後、準備した図譜を配布して、描出ポイントを伝え、肝門部に入り込む門脈を描出して、その上に重なる総胆管を探し総胆管の長軸像を出せるように練習しました。エコーは佐野の使用しているモバイルエコー『SonoSite MicroMAXX』を持参。もう一台デモ機を業者さんにお借りして、2台で行いました。

これは、何を見ているのでしょうか?

ヒント①:リニアプローブでかなり浅いところ。高エコーラインから下は無エコー帯

ヒント②:この部分をこうやって見えます。



被験者は佐野、お昼ご飯を我慢して臨みました。もう一人は学生。みんな最初は少し悪戦苦闘しながら総胆管の描出はできるようになりました。そして、肝内門脈の位置関係と肝内胆管の位置関係を学んでもらいました。その後、時間にゆとりがあったので、胆嚢、膵臓、腹部大動脈などを練習してもらいました。もちろん、今回のエコー実習程度では網羅的にスクリーニングできるレベルには到達するはずありませんが、「エコー図を自分でも当ててみる」というきっかけを付けて、今後の研修時により積極的にかかわり、「自分で当ててみる」という意欲のきっかけ作りになれば、という試みでした。実習後に少し、「エコーってそんなことまで見れるんだ!」という所見スライドを盛り込んで、見てもらいました。

僕の自験例ですが、①上顎洞の副鼻腔炎のエコー図所見 ②第5中手骨骨折の骨折部分のエコー所見 ③肩峰下滑液包炎と上腕二頭筋長頭筋腱炎に対するエコーガイド下インターベンション(肩峰下滑液包への注射、上腕二頭筋長頭筋腱鞘内への注射)の所見を見てもらいました。

その後、ケースカンファレンスを1時間行いました。これはいつも行うスタイルと同じような方法で、出題者は佐野、板書及びアドバイザーとして、高知大学医学部附属病院総合診療部准教授・武内世生先生が行ないました。今回少人数でしたので、一人一つずつ問診内容を出してもらい、鑑別診断の上で身体所見を取って、確からしさが上がるか・下がるかを検討して4つまで絞り込み、検査結果を見て確定に至りました。今回、少なめの人数でアットホームな雰囲気のできましたので、皆リラックスしていろいろと発言してくれました(症例の疾患名はここではあえて伏せて置かせてください。同じ実習と症例を、別の研修病院でも開催する予定にしております)。以上、ご報告をさせていただきました。



★3 四国ブロック支部における会議が開催

四国ブロック支部事務局長 大原昌樹

日本PC連合学会四国ブロック支部役員会が、平成26年4月18日(金)19:30分から、四国中央市ホテルグランフォーレで開催されましたので、その概要を報告します(図)。

平日夜の開催にも関わらず役員34名中22名の参加がありました。まず、板東支部長から開会の挨拶とともに、連合学会理事会等の情勢報告が行われました。会員数の動向、後期研修プログラム認定状況、全国理事・ブロック理事・代議員選挙結果等の報告がありました。学会理事には、四国ブロック代表の板東先生に加え、理事長推薦で高知大阿波谷教授が選任されました。支部代議員は、会員増に伴い、21→34名の大幅増となりました。

平成25年度決算は、本部助成金60万円に対して、57.7万円の支出でした。学術集会助成金25万円、論文集19.5万円、会議費9.7万円などです。平成26年度予算は、代議員増に伴い本部助成金が増える予定で、学術集会に対しての補助金を25→30万円に増額することが了承されました。各県



事業についても年5万円まで補助する制度がある。その際は、支部ニュースレターを通して四国の全会員に周知していただきたい。特に、後期研修プログラムの充実や指導医研修、プログラム同士の交流などに力を入れていく方針となった。

次に、第14回四国ブロック支部学術集会(徳島)の準備状況について、白川大会長から報告された。平成26年11月15~16日、徳島大学内の日亜メディカルホールにて開催される。15日ー総会、臨床推論セミナー、日本心

療内科学会中四国支部との合同シンポジウム、香川大学岡田先生特別講演、丸山理事長講演、懇親会。16日ーポートフォーリオ発表会(原先生企画)、一般演題の予定である。

支部論文集については、第7号の論文がそろい、役員名簿など載せれば完成するので、これを学術集会案内状と一緒に発送することとなった。支部ニュースレターは、PC学会誌に同封されることになっており、原稿には協力してほしいと支部長からお願いがあった。次号から各役員の挨拶・業務などを各県毎に掲載することとなった。

連合学会関連では、学術集会内5月11日午後ブロック支部長会議(支部長、澤田・川本各副支部長参加)、特別企画「ブロック支部の活性化」への参加をお願いした。家庭医養成プログラム関係では、プログラムは増えているが研修医の参加者が少ない、四国ブロックの活性化策をさらに検討することが必要ということとなった。

最後に支部規約について話しあった。現規約は役員数、改選時期など問題点が多い。このため、規約改定が必要ということで一致、原案を事務局が作成、総会に諮ることとした。21時過ぎまで熱心に討議が行われ、有意義な役員会であった。

平成26・27年度四国ブロック代議員

板東 浩	きたじま田岡病院/徳島大学
加藤 正隆	かとうクリニック
澤田 努	高知医療センター地域医療科
武内 世生	高知大学医学部附属病院総合診療部
阿波谷敏英	高知大学医学部附属病院家庭医療学講座
た部 富三	いずみの病院
佐野 良仁	佐野内科リハビリテーションクリニック
藤田周一郎	医療法人社団素耕会富士クリニック
川本 龍一	愛媛大学医学部地域医療学講座西予市地域ケアセンター
谷 憲治	徳島大学大学院総合診療医学分野
山口 治隆	徳島大学大学院総合診療医学分野
青木 啓祐	国保杉ノ川診療所
河野 光宏	徳島大学ヘルス・イノベーション研究部総合診療医学分野
大原 昌樹	綾川町国民健康保険陶病院
横井 徹	横井内科医院
白川 光雄	海陽町中央診療所
久保 文芳	内海病院
岩花 弘之	徳島県立中部病院
藤原 真治	徳島県美馬市国民健康保険木屋平診療所
高原 完祐	愛媛十全医療学院附属病院
中津 守人	三豊総合病院
鎌村 好孝	徳島県立中央病院
村上 晃司	愛媛県立中央病院
小原 朝彦	愛媛医療生協新居浜協立病院
杉山 圭三	愛媛県立中央病院
大塚 伸之	西予市立野村病院
佐藤 清人	香川井下病院
塩見 勝彦	塩見内科医院
村山 善紀	村山内科
木村 年秀	三豊総合病院歯科保健センター
千田 彰一	香川大学医学部附属病院総合診療科
瀬尾 宏美	高知大学医学部附属病院
泉川 美晴	香川大学医学部
原 穂高	愛媛医療生協愛媛生協病院

★4 四国ブロック支部役員紹介（順次記載、本号では愛媛8名）

四国ブロック副支部長（愛媛）川本龍一

川本龍一（愛媛大学医学部地域医療学講座）：本講座は平成21年1月に、地方の深刻な医師不足対策として文部科学省が改定した医学教育の指針（モデル・コア・カリキュラム）を受け、愛媛県ならびに市町村振興協会からの寄附講座として開講いたしました。本講座では久万高原町立病院と西予市立野村病院に設けられた2ヶ所のサテライトセンターにて学生の地域医療実習と初期研修の地域医療研修、さらには後期研修の家庭医養成愛プログラムを担当しています。本講座の担当者として、これからも教育・診療・研究と様々な事業で皆様からのご支援をお願いすると存じますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

加藤正隆（かとうクリニック）：地域の家庭医・総合診療医として活動しており、禁煙治療・認知症診療・在宅医療などに力を注いでいる。教育では、愛媛大学医学部地域医療学講座でタバコ問題の講義を毎年担当しており、十全総合病院（新居浜市）家庭医養成プログラムの指導医でもある。PC学会ではタバコフリーWGを設立し、学術大会でのシンポジウム・ワークショップ・インタレストグループ活動等を主宰している。

大塚伸之（西予市立野村病院）：外科3年間のストレート研修後、内科医として活動しています。内科一般、禁煙指導、訪問診療、診療所支援、保健活動など行っています。研修医の地域保健研修や学生の地域医療実習や小外科実習など担当しています。末期がん患者さんの受け入れも増えてきており、在宅での看取りなども取り組んでいきたいと思っております。

小原朝彦（生協宇摩診療所）：宇摩地域では県立三島病院廃止後中核病院として四国中央病院の350床へ改築が待たれているが早期実現を期待している。法務局が「死体」と認定し日本の「献体」及び「死後の埋葬」の意識に悪影響を与えていた「人体の不思議展」の「死体展」の中止運動に参加し中止に追いやった。愛媛県の医療機関では初の「全量売電」の太陽光発電を診療所の屋上に設置し全世界を死の世界に迫りやる放射能に対抗して甲状腺癌におびえる福島の子供たちに連帯の気持ちを示すために自然エネルギーで電力供給をおこなっている。

高原 完祐（愛媛十全医療学院附属病院内科）：当院はPT, OT, STの養成学校の附属病院で、整形外科の手術（人工関節、脊椎など）とりハビリが主体の病院です。一人内科常勤医として診療のほか、学院の内科学の講義の一部や愛媛大学医学部の地域枠1年生の実習を担当しています。PC医としてcommon diseaseに対しては専門医に負けない能力を身に着けたいと日々精進しているつもりです。食事療法や血圧、脂質に対する考え方にはいろいろな立場があり、最近では正常値に関する論争混乱もみられますが、目の前の患者さんにきちんと説明できるように、何が正しいことなのか、客観的かつ複眼的に判断したいと思っています。

杉山圭三（愛媛県立中央病院総合診療科）：自治医大卒業後、へき地診療所勤務を経験し、平成15年から愛媛県へき地医療支援機構専任担当者として活動しております。現在は上司の村上医師と共に、当院での家庭医療後記研修プログラム新規立ち上げ準備に取り組んでおります。病院総合診療科として、他プログラムからの研修受け入れについても、前向きに対応したいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

村上晃司（愛媛県立中央病院総合診療部主任部長）：当院総合診療科では、初診患者年間約5000人、入院患者年間約400人をはじめ、内科系救急診療、漢方・鍼灸診療、女性外来、subspecialityをいかした専門診療（糖尿病・感染症等）に加え、へき地医療・地域医療支援（診療所・地域中核病院への代診支援等）、教育（研修医・学生）といった幅広い活動を行っており、常時スタッフを募集しています。よろしく願いいたします。

原 穂高（愛媛生協病院）：新参者ですが何卒温かく見守ってください。松山市郊外の小さな病院で家庭医として臨床、教育、（研究）に勤しんでいます。初期・後期研修、その後まで教育に関わり、質的研究をはじめとした臨床研究や診療の質改善などに取り組んでいます。よろしく願いいたします。